

西勝忠男先生略歴

職 歴

- 1965年（昭40 城西大学創立） 城西大学経済学部専任講師
 1970年（昭45） 城西大学経済学部助教授
 1971年（昭46） 城西大学学生部副部長（～72.5.31）
 1973年（昭48） 城西大学高麗寮々監（寮閉鎖まで）
 1975年（昭50） 城西大学経済学部教授
 1985年（昭60） 城西大学就職部長
 1987年（昭62） 〃 （再任）（～89.3.31）
 1993年（平 5） 城西大学教養課程主任（～95.3.31）
 1994年（平 6） 城西大学教務部長（～95.3.31）
 1995年（平 7） 〃 （再任）（～97.3.31）
 2001年（平13） 3月城西大学定年退職

※ 1965年以前の経歴（学歴，研究・教育歴）等に付きましては別冊『私の学究・教育人生の歩み』をどうぞご参照ください。

担当科目

- 創立当初～80年代＝「論理学」，「プロゼミⅠ」，「プロゼミⅡ」及び「道徳教育の研究」。
- 90年代以降＝カリキュラム改革の進行に伴って，「論理学」は前・後期分離履修の「論理と真理」・「合理的思考」となり，「プロゼミⅠ」は「フレッシュマン・セミナー」となる。
- さらに，改革の嚆矢となった「現代文明論」（総合科目）及び「英国哲学と経済倫理」の2科目を新設担当。アダム・スミスを中心とする「ゼミナールⅠ」，「ゼミナールⅡ」。教職科目の「西洋哲学概説」及び「東洋哲学概説」（ともに半期）も担当。したがって合計9科目担当。

研究動向（70年代以降：非常勤出講を含む）

- 1972年（昭47）42歳。4月，東京教育大学文学部出講。「科学哲学」，「科学哲学特殊講義」，「哲学（論理学）」などを担当。（～77.3.31＝東京教育大学閉学）
- 1972年8月～11月，研究・視察のため英国出張。英国科学哲学会（The British Society for the Philosophy of Science）に出席（9.22～24，ブリストル大学にて開催）。ロンドン，ブリストルのほか，オクスフォード，エディンバラなどにも滞在。
- 1972年12月，第9回「日本翻訳文化賞」受賞（業績一覧参照）。
- 1976年（昭51）46歳。国際商科大学（現東京国際大学）教養学部設置に伴う科目担当者として「論理学」出講（～91.3.31）。
- 1977年（昭52）47歳。日本イギリス哲学会主催の例会（7月1日 会場＝東洋大学文学部）にて「現代イギリス哲学」に関する研究報告（コメンテーター＝東京大学杖下隆英氏）を行なう。この成果としての論文「パズルは解けたかーラッセルの『指示について』」は翌78年学会誌『イギリス哲学研究』創刊号に掲載（業績一覧参照）。
- 1980年代 従来果たせなかったギリシア古典を原語でホメーロスからアリストテレスまで幅広く読む機会に恵まれ，一方，英詩のもつ思想性とG.M.ホプキンズへの関心の高まりとが相俟って，論文「ホプキンズのパルメニデース論」を書き上げる（業績一覧参照）。
- 1990年代 滞日中の英国人教授（国際医療福祉大学）D.バトラー氏の朗誦からエドワード・トマス（1878-1917）の詩を知り，以来この類いなき詩人・思想家・ナチュラリストの多くの著述を収集し，英国諸所の故地を訪い，また翻訳するなど，持続的に研究活動を行なっている。

加入学会（2001年現在）

日本哲学会，日本イギリス哲学会，日本西洋古典学会，筑波大学哲学・思想学会，ルネッサンス研究所。（日本科学哲学会は2001年3月に退会）